Vol.10
2024年1月

伊豆の国市郷土資料館

資料館だより

目次

表紙 …(1)
テーマ展示 …(2,3)
開催したイベント…(4)
インフォメーション …(4)

①

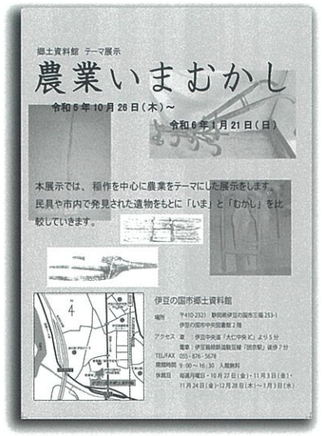
②

③

④

①ねずみ返しの出土状況写真
②田下駄
③鍬
※①～③は山木遺跡の出土品
④写真の引伸機
※写真のプリントに使う
①～④全て伊豆の国市郷土資料館所蔵

テーマ展示『農業いまむかし』



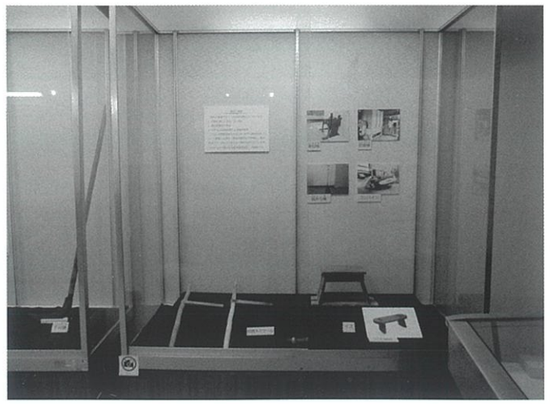
資料館では令和六年一月二十一日（日）まで企画展「農業いまむかし」を実施しました。本展示では大正や昭和頃の農具と山木遺跡から出土した農具のパネルを展示し、比較をしています。農具は一九六〇年頃から機械の発達が目覚ましく急激に変化し、現在使われている農機具に改良されていきました。その起源になるものは既に弥生時代からあり、展示品の鍬などもその一つです。

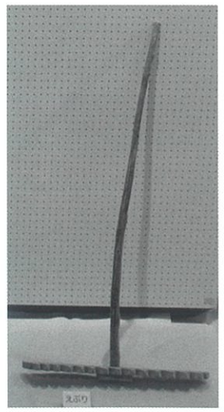
伊豆の国市での生活において、狩野川は重要な要素です。昭和四十年に放水路が完成するまでは水害が常にありました。今でも記録的な大雨が降ると浸水被害が起きることがあります。狩野川は農業にも影響を及ぼしています。

市内の農地は、東側の山裾に近い地域『ヤマツキ』と、狩野川の自然堤防上に立地する地域『カワツキ』に分けられます。ヤマツキには湿田が多くみられました。年間を通じて乾かないので犂の使用が見られず、裏作も難しかったようです。山木遺跡もこの山裾に近い地域なので湿田になります。そのため、田にはまり込まないための田下駄や大足がたくさん発見されています。一方、カワツキには乾田が多くみられます。冬場は田が乾燥するので裏作に麦を作付け出来るところが多くあり、また、牛馬を使った犂による耕作ができました。

昭和三十三年九月の狩野川台風により、大量の土砂が水田の大半に流れ込んで堆積し、水田の土質が一変しました。また、その後の土地基盤整備や区画整理により排水がよくなり、湿田・乾田の差がはっきりしなくなりました。

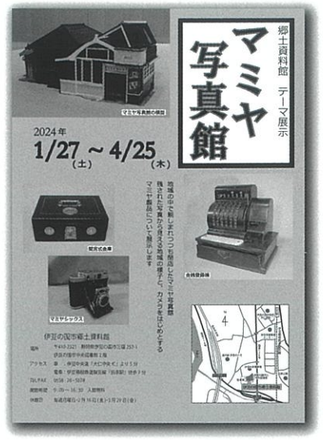
展示の様子①


展示の様子②



展示した民具
えぶり（左）、大足（右）

テーマ展示『マミヤ写真館』



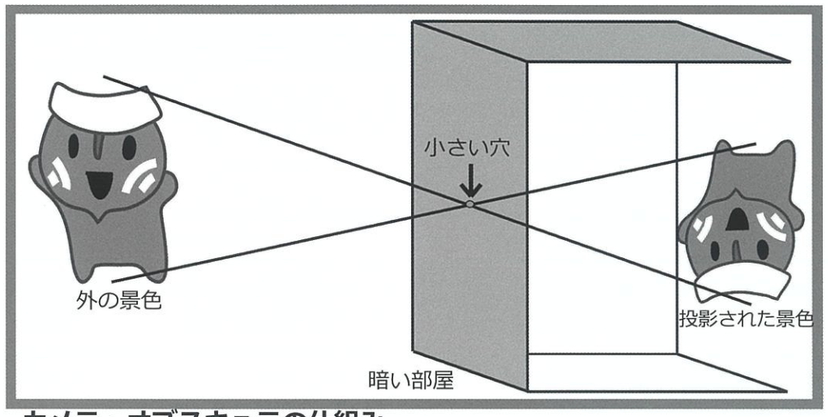
一月二十七日（土）からの企画展は「マミヤ写真館」です。間宮式金庫、金銭登録機やカメラの他に大正から昭和にかけての写真を展示します。

カメラの原型はいつから存在していたかご存知でしょうか。

カメラの原型と言われるものは「カメラ・オブスキュラ」（暗い部屋・暗い箱）と呼ばれ、紀元前には既に存在したと言われています。暗い部屋の壁にある小さい穴を通る光が、穴と反対側の壁に外の風景を逆さまに映し出す仕組みで、ギリシアの哲学者アリストテレスもこの仕組みの記述を残しています。

十六世紀頃、この「カメラ・オブスキュラ」を絵画の補助具とすることが提唱され、それから投影された光をトレースして正確な絵を描くために使われました。この「暗い部屋」が次第に小型化され、十七世紀にはドイツの僧によって、持ち運びが出来るボックスカメラの構造が書き遺されています。

このカメラ・オブスキュラを使い写真を撮ることも出来ます。光を通す穴の反対側に感光材料を設置し、この感光材料を、穴を通った光にさらすと外の風景が写されて写真になります。感光材料とは、光を感じて記録する材料のことです。



カメラ・オブスキュラの仕組み

この手法はピンホールカメラと言われ、今でも愛好家がいます。カメラの基本構造は「暗い箱」であり、レンズがなくても写真を撮ることが可能です。

カメラで写し取ったものを写真として残すためには、その写し取ったものを画像として定着させる必要があります。カメラ・オブスキュラを使い、感光材料に画像を初めて定着させたのは、フランスのジョゼフ・ニセフォール・ニエプスという人です。

ニエプスはアスファルトの感光性と、光によって硬化することに着目し、それを画像の定着に用いました。現在、世界最古の写真を言われているのが、一八二五年にニエプスが撮影した写真です。ただこの方法は、日中でも撮影に八時間もかかりました。

ニエプスとは別に研究をしていたルイ・ジャック・マンデ・ダゲールという人が、一八三七年に銀板写真を発明しました。銀メッキ銅板にヨウ化銀を塗り、撮影した後に水銀蒸気にさらして現像します。そのあと食塩の飽和水溶液を用いて画像を定着させました。この時のカメラは大小の箱を入れ子にした構造で、内箱を前後してピントを合わせます。シャッターは無く、ふたの開閉で撮影の時間を調節しました。このカメラが世界初のカメラで、撮影から現像までの道具一式で約五十キログラムにもなりました。

画像を映し出すものは、初めは銀板でしたが、ガラス板を使い湿った内に撮影をする湿板、乾いた状態で撮影する乾板と進化していきます。一八八四年にジョージ・イーストマンによりロールフィルムが開発され、その後、カメラが小型化していくとともに、写真が一般大衆のものになりました。

令和５年度下半期　開催したイベント

✸縄文ポシェットを作りました！

生涯学習課主催の伊豆の国子ども教室「あいキッズ」で「縄文ポシェットを作ってみよう！」という講座を実施しました。このポシェットは紙バンドを「網代編み」という方法で編みます。紙バンドが硬く、網目もずれやすくて参加者は苦戦していましたが、最後は全員ポシェットを完成させることができました。

編み物は縄文時代草創期（約一万三〇〇〇年前）にはあったと考えられています。草創期の編み物は、現時点では土器の底に残っている敷物の圧痕で確認できます。市内にある今から約一万一〇〇〇年前の遺跡である仲道Ａ遺跡でも、発見された土器の底に網代編みの圧痕が残っています。

✸インフォメーション✸

施設案内

開館時間　午前九時～午後四時三〇分
休館日　月曜日　毎月最後の金曜日
年末年始（十二月二十八日～一月三日）
六月最終週の館内整理期間
（図書館休館日に準じる）
料金　無料
所在地　静岡県伊豆の国市三福二五三－一
（伊豆の国市立中央図書館二階）
電話　〇五五八－七六－五六七八（ＦＡＸ同じ）

周辺地図

伊豆の国市郷土資料館　資料館だより　vol.10
編集発行：伊豆の国市郷土資料館　令和六年一月二十一日
印刷：いさぶや印刷工業株式会社